

地区別市政懇談会 当日質疑応答用紙一覧 上地区
 平成26年10月21日(火) 上公民館
 地区別に事前にあげられたテーマについて

	質問事項	当日の回答、及び補足等	担当課
1	<p>「さと地住宅共生開発許可制度」が施行されていますが、この制度を利用した住宅建築は行われていないようです。現在の状況と今後の見通しについて説明をお願いします。</p>	<p>この制度の活用状況は平成25年に1件、26年9月5日現在で1件、合計2件が許可済みとなっています。現在、秦野市まちづくり条例による環境創出行為として2宅地の分譲案件が届出されており、この内容につき各課が協議中という状況です。</p> <p>この「さと地共生住宅開発許可制度」は「上地区活性化計画」において、中・長期的に展開する取組みとして位置付けられています。これまで市のホームページや広報等で周知を行ってきましたが、なお一層の制度の利用促進を図られるようPRを行っていきたいと考えます。</p> <p>(補足) 平成27年度、「広報はだの」特集号において「さと地共生住宅開発許可制度」の記事を掲載する予定です。</p>	<p>企画課 開発指導課</p>
2	<p>新東名高速道路の「秦野インターチェンジ」が上地区に建設される計画がありますが、これを活用した地域の活性化策の話が耳に入ってきません。自然環境を生かした企業誘致等について市の考えをお聞かせください。</p>	<p>新東名高速道路に秦野ICが整備されることから広域交通へのアクセスや物流面において利便性が大きく向上します。また、都心から1時間ほどでアクセスできる自然環境が豊かな上地区は自然体験を中心とした教育環境や観光農業といった可能性も秘めています。</p> <p>上地区は地形に起伏があり、国道246号沿線を除くと新たな用地を創出するにはかなりの開発が必要になります。市としては開発基調の都市的土地利用を図るよりは農地や里山など上地区ならではの恵まれた自然環境を生かした農業振興、公共交通対策、観光振興策などの施策を住民の皆様との協働により取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>国道246号沿道については、民間活力の導入により地域の活性化や産業振興に資する施設の立地誘導を図っていく必要があると考えますが、まずは上地区活性化計画に掲げた施策や、現在行われている取り組みを着実に進め市内外へ魅力を発信し、活性化につながるよう市民の皆様との更なる連携を図っていききたいと考えています。</p>	<p>企画課 新東名周辺整備担当</p>

3	<p>柳川生き物の里は秦野市の指定を受けてから11年を迎えています。管理運営は「柳川生き物の里管理運営委員会」が行っていますが、その担当は稲作と指定地全体の草刈りです。みどりの条例の規定条項では「希少なまたは貴重な野生の生き物が生育し、または生息する水辺等の保護」がうたわれています。現在の取り組みは、希少な物または貴重な生き物を見極める専門的な知識を有する人や生き物に熱意のある人が不足しており、本来の目的が達成できない危惧があります。この事業の方向性について市の考えをうかがいます。</p>	<p>現在市内6か所にある生き物の里はそれぞれの地域性を生かした独自の管理をしています。ビオトープ中心の里や小学校の学習の場ということで活動している里、企業や大学の力添えをいただき運営している里もあります。</p> <p>この柳川の生き物の里は地元で組織する管理運営委員会で田植えや、その水路等の整備をやっていただいています。無農薬のコメづくり等が水辺希少生物の生息環境を保全し、生物多様性の基本である里地里山の環境保全につながると考えています。</p> <p>専門家については、大学の学生等も含め、力添えをいただけるようにしていきたいと考えます。</p> <p>生き物の里の管理は希少な動植物の保全の目的以外にも地域コミュニティの場であり、環境学習体験の場であると捉えており、各地域で柔軟に対応をしていきたいと考えます。</p>	環境保全課
4	<p>上地区の防災マップには急傾斜地崩壊危険箇所、土石流危険渓流氾濫区域が示されていますが、ここに該当している住宅地の住民が予防工事をする場合には自治体の補助基準はどのようになっているのでしょうか。</p>	<p>市では補助制度を定めておりません。高さが5m以上で、傾斜角が30度以上、あるいは崩壊の危険がある集落が5戸以上ある場合、こういった一定の要件のもと、土地所有者に代わり、神奈川県が工事を実施することがあるため、防災課へ御相談ください。</p> <p>また、神奈川県が土砂災害警戒区域の調査を行い、危険地域の指定を行う予定となっています。これを反映したマップを平成27年度以降各家庭に配布する予定です。配布されたら、警戒区域に入っているかどうか確認をしていただくようお願いいたします。</p>	防災課

当日の質疑応答について

	質問内容	当日の回答	補足、現在の状況・今後の対応等	
5	<p>秦野市では土砂災害に対する補助がないということですが、異常気象で大雨による被害が多発する昨今の状況を鑑み、ぜひ補助制度の創設を要望します。</p>	(要望)	要望として承ります。	防災課

6	大雨による土砂災害の危険がある場合、公民館が避難所となっていますが、大雨だと公民館まで移動ができない方もいます。新しくできる消防団の施設等を一時的な避難場所として活用できないでしょうか。	各自治会と話したうえで、一時の避難場所の提案等をいただき、その安全性を確認した上で、それぞれ一時的な避難所を自治会ごとに設定することも考えています。	当日の回答に同じ。	防災課
7	上地区の活性化について地域で協議会を設置し、行政と協議の上、原案を策定しました。しかし、その後の行動の段階では呼びかけがありません。地元との協働無くして活性化が可能なのでしょうか。ぜひ、市民を巻き込んで進めていただきたいと思います。	(要望)	「上地区活性化計画」については平成27年度をもって計画期間が満了します。平成28年度以降の本計画の在り方について、地域の方々と意見交換をさせていただく中で、その後の方向性を検討してまいります。	企画課
8	もともと上地区の活性化のために農家住宅を作っていきたい、就農を目指す新たな転入者を呼び込むことを目指した制度にしたいという思いがありましたが、「さと地住宅共生開発許可制度」の利用が少なく、当初の思いとかけ離れていると感じます。	この制度は通常市街化調整区域の中では建てられないような住宅を、何とか上地区の中で建設可能としたいということで制定した特別な制度となっています。実際には中々利用がされていない状況がありますが、せっきくの制度ですので、引き続き周知に努めてまいります。	「さと地共生住宅開発許可制度」の周知はもとより、「はだの市民農業塾」などによる農の担い手の育成、確保に努めます。	企画課
9	棚原の道路の改修工事をやってもらえるということでありたいのですが、できれば車がすれ違えるようにしてもらいたいと思います。	昨年相談を受け、3年くらいかけて改修工事を予定しています。もともと狭い道路ですれ違いが困難なことは認識していますので、できるだけ安全な方法をとりたいと考えています。	当日の回答に同じ。	道路管理課
10	道路端の白線が消えかかって危険な箇所があります。	まずは、現地を確認します。	平成26年度内で対応予定です。	道路管理課

11	水路のような箇所から、民地へ水が流れ込んでいて困っている箇所があります。対応をお願いします。(三廻部40付近)	まずは、現地を確認します。	平成26年11月27日、直径20ミリメートルの給水管が漏水していたため、水道局で対応しました。	水道施設課
12	地デジの難視聴地域で組合を組織し対応していますが、経済的負担が非常に重くこのままでは継続が困難です。最低限のアンテナ設備で維持費が公平で、平等にテレビが見れるように市としても負担軽減策を講じて欲しいと思います。また、電力会社、放送事業者、国への働きかけを要望します。	国策による変更なので、国や放送事業者がしっかりと対応することが望ましいですが、市としても問題点を把握し、経過や放送法等も考慮したうえで、国等への働きかけを支援してまいります。	国や放送事業者(NHK)、電力会社などへ聴き取りをした後、昨年12月、共聴組合と国等への働きかけについて協議しました。これを踏まえた上で、組合から総務省へ費用軽減の要望が提出されることになりましたので、平成27年2月17日、総務省へ同行いたしました。また、同時に市長から総務省へ同内容の要望を行いました。	広報課
13	新東名の工事の関係で中日本高速道路(株)と相談したいことがある場合はどこに話をすればよいのでしょうか。	何か不明点等がある場合は、高規格道路推進担当を通じてお問い合わせいただくようお願いします。	当日の回答に同じ。	高規格道路推進担当

14	<p>市民健康診査に心電図や視力検査が基本メニューに含まれないのはなぜでしょう。心電図は必要に応じて、とありますが、これは自己申告で実施なのでしょうか、それとも医師の判断でしょうか。いずれにしても早期発見は医療費削減につながると考えるので基本メニューに含めるべきでないでしょうか。</p>	(要望)	<p>市民健康診査の実施については、厚生労働省からの通知で特定健康診査の健診項目とすることと示されており、心電図や眼底検査は特定健康診査に準じて検査結果と医師の判断により実施をしております。</p> <p>生活習慣病の予防のために毎年健康診査を受けていただき、日頃から健康管理に関する相談ができるかかりつけ医をもつことで、病気の早期発見につなげていただきたいと思います。</p>	健康づくり課
15	<p>田頭橋の改修の完了に伴って、つながる道路はどのようになるのでしょうか。</p>	<p>市所有の土地があり、そこに道路を新たに設けてつなげる形を考えていますが、橋の完成後のことなので、もう少し先のこととなります。</p>	<p>当日の回答と同じ。</p>	道路整備課
16	<p>以前、八沢地区に水害防止のための砂防ダムのようなものを作っていただきましたが、長い年月で底が上がってきているように思います。大雨による災害が心配です。</p>	<p>八沢地区には新東名の関係で砂防施設の付替として新しい施設が計画されています。今後大きな調整池ができて安全性は高まると考えます。それ以外のダムについては、現地を確認してもらうよう県に要望します。</p>	<p>当日の回答と同じ。</p>	<p>国県事業推進課・高規格道路推進担当</p>

17	<p>地域の子どもは地域で育てることが基本と考えますが、現在子ども会組織の衰退が感じられます。もう一度子どもを日常的に地域の中で育てる仕組みを行政と子ども会で作り上げてもらいたいと思います。</p>	(要望)	要望として承ります。	子ども育成課
18	<p>赤十字秦野病院の産婦人科撤退問題の現状はどのようなになっているのでしょうか。</p>	<p>県知事にも協力を依頼し、市としても全力で産婦人科の継続のために力を尽くしています。今後のことは不透明ですが、方向性が明らかになれば、お知らせしてまいります。</p>	<p>先の新聞報道や2月1日号の「広報はだの」でお知らせしました通り、昭和大学から派遣を受けてきた秦野赤十字病院の産婦人科医の撤退問題は、大学と神奈川県との間で協議を重ねた結果、来年度の診療体制として、分娩業務は休止されます。ただし、一部派遣が継続され、常勤医師1名、非常勤医師3名により、妊婦健診、産前産後ケア、新生児健診その他婦人科診療は引き続き行われることになりました。今後は、秦野赤十字病院では、分娩をできるだけ早く再開できるよう、分娩業務のできる助産師の研修や産科医の確保に取り組んでいきます。また、市としても、市民の皆様に必要な情報を提供し、ご理解をいただくとともに、引き続き、県と日赤と連携して産婦人科医師の確保に努めてまいります。</p>	健康づくり課
19	<p>上小学校の生徒数について今後の予測数値はありますか。</p>	<p>現在80数名のところですが、5年後の推計では70名くらいを想定しています。</p>	当日の回答と同じ。	学校教育課

20	消防の貯水槽の水は災害時に飲料用にはできないでしょうか。	災害時の飲料水は小中学校の貯水槽の水道を循環させている水を利用することになります。防火用の貯水槽の水は飲料水としての利用は難しいのではないかと考えます。	当日の回答に同じ。	防災課 警防対策課
21	地域の公共交通「上ちゃん号」については、非常に助かっています。今後も地域住民として存続のため努力をします、市も引き続き支援をお願いします。	(要望)	要望として承ります。	公共交通推進課